



東京経済大学ニュース

Vol.14

東京経済大学 Web サイト : <http://www.tku.ac.jp/>

Contents

特集 1

ピアサポートの充実をめざして

～学生主体による新入生ウェルカムパーティを開催

特集 2

佐々木裕一コミュニケーション学部教授が

電気通信普及財団のテレコム社会科学賞を受賞！

特集 3

日本初・シニア向け大学院博士課程で新制度

「3年分の学費で6年間在学」が可能に

東経大インフォメーション

Information 1 大倉喜八郎東京経済大学記念学術芸術振興会

学術講演会「ダイヤモンドから見る地球内部」を開催

Information 2 キャリアデザインプログラム

昨年に引き続き「デイキャンプ」を開催

Information 3 2019 年度入試結果

キャリアデザインプログラムは 10.1～19.4 と高い倍率を記録

Information 4 大学説明会

国分寺は 5 月 24 日(金)／28 日(火)、大宮は 6 月 18 日(火)に開催

Information 5 キャリアデザイン・フォーラム 2019

主体性を引き出すキャリア教育 ～高校・大学・会社での連続的なキャリア形成～

特集 1

ピアサポートの充実をめざして ～学生主体による新入生ウェルカムパーティを開催

東京経済大学は2019年3月4日（月）と3月14日（木）に東京経済大学生生活協同組合と共催で学生主体による新入生向けウェルカムパーティを開催し、約300名の入学予定者が在學生と交流しました。

この取り組みは、新入生が高校とは異なる大学生活や学びへの理解を深め、不安を解消し、スムーズに新生活がスタートするよう、上級生が企画し、本学生協に協力を仰ぎ、2017年度より実施しているものです。



新入生に説明するファシリテーターの学生

研修を受けた先輩学生約25名がファシリテーターとなり、数名でチームを組み新入生に対応しました。アイスブレイクを通じて打ち解けた上で、大学生活について先輩に質問するグループワーク、大学生活についての学生視点からの説明、大学を知るためのチーム対抗ゲームなどが行われました。

入学後のつながりを考え、新入生は学部別に教室に振り分けられました。経営学部クラスでは、新入生がゼミ活動や卒論について積極的に先輩に質問していました。経済学部クラスでは上級生が積極的に話しかけ、自身の学生生活の詳細や役立つ大学の制度などについて語る姿も見られました。

新入生に、ウェルカムパーティ参加前と参加後にアンケートを実施したところ、特に大学生活への不安について大きな変化が見られました。

自由記述では「大学生活に対する不安や心配が軽減した」「先輩と話せて大学生活に対するモチベーションが高まった」などの意見が多数あり、新入生の満足度は高いものでした。

新入生からの質問に回答する
ファシリテーターの学生



■あなたはこれからの大学生活に不安はありますか？

選択肢	参加前	参加後	差分
とてもある	26.6%	9.5%	-17.1%
多少ある	49.8%	48.9%	-0.9%
どちらともいえない	12.9%	18.7%	5.8%
あまりない	9.5%	19.0%	9.5%
全くない	1.2%	3.9%	2.7%

■自由回答

参加前	参加後
●ひとり暮らしが本当にできるのか、生活していけるか、心配。 ●きちんと単位が取れるか、授業についていけるか心配。 ●友達ができるか心配(多数)。 ●大学がどんなところかわからないし高校と全く違うから不安。 ●勉強と生活の両立ができるかどうか不安。 ●何をすればいいかわからず、間違えたことをしないか不安。 ●授業の取り方やサークル授業についていけるかわからない。	●初めての場所でかなり不安があったが、優しい先輩方のおかげで、だいぶ解消された。 ●今日の説明で単位取得や履修について理解できた。 ●新しく友達ができただけでうまくやっていけそう。 ●先輩の話を聞いてモチベーションが上がった。 ●ウェルカムパーティで聞きたいことがほとんど聞けた。

学生同士の知識や経験の共有、アドバイスを通じ相互に支え合うピアサポート

ピアサポート充実と、それを支えるファシリテーターの育成を目的としたこのプロジェクトは、本学の2017、2018年度教育改革支援制度「進一層トライアル」を活用し、加藤みどり経営学部教授を中心に進められました。ピアサポートとは、学生同士の知識や経験の共有、アドバイスなどを通じて学生が相互に支え合う取り組みです。

進行役を務めた学生たちは、チームビルディングやファシリテーションなど、ピアサポートに必要なスキルを研修で学び、今回のイベントに臨みました。



(左)前田さん(右)中山さん

本プロジェクトの学生リーダーとして全体を統括した前田マリアナ幸さん(経営学部4年)は、「昨年からファシリテーター研修に参加し、今年は代表という立場で企画立案や当日のスケジュール作成、ファシリテーターの学生たちのシフト組みなどを担当しました。代表としてこのプロジェクトを運営するにあたって自分自身に課したテーマは、『ファシリテーターのファシリテーターになること』。自分がファシリテーターとして新入生に関わることはもちろん、ファシリテーターを務める学生たちがスムーズに運営に取り組めるよう、彼らをサポートすることに注力しました。打ち合わせや担当配置決めの際には、自分の意見ばかりを主張するのではなく、各ファシリテーターの学生が力を発揮できる場を提供するように努めました。『各担当者を信頼し、任せること』これも研修で学んだことのひとつです」と話しました。

また、副代表として前田さんを支えながら、当日の企画運営やファシリテーター学生の取りまとめなどを行



った中山華穂さん（経営学部4年）は「代表の大変さは重々理解していたので、細かい事務的な作業は積極的に引き受けるよう、常に心がけていました。ウェルカムパーティ当日は新入生たちにクイズに答えてもらうゲーム企画の運営に加え、遅刻してきた新入生の対応など、イレギュラー案件のフォローも担当し一日中走り回っていましたが、とても心地よい充実感でした。新入生に対しては、相手が話しやすい雰囲気をつくることを意識しました。ファシリテーターはただ話を聞いているだけでは務まらないことに気づき、相手が話してくれることの2倍の相槌を打つ気持ちで接していました。参加した新入生に『先輩のようにになりたいです』と言ってもらえた時はとても嬉しかったです」と当日の様子を振り返りました。

今後の展望について、前田さんは「今後は、後輩たちにプロジェクト全体の統括を任せ、私たちはサポート役にまわろうと思っています。今回のアンケート結果などを元に、改善点や反省点を整理し、次期代表に引継ぎをする予定です。研修では、グループワークがメインで、多数決ではなく話し合いで1つの答えを導き出す、という課題に取り組みましたが、研修を受ける前と後では、ファシリテーター学生の言動がまったく異なることにも感動しました。ぜひこのプロジェクトに関わる学生が増えてほしいと思っています」と話しました。中山さんは「私たち自身、このプロジェクトを通してとても成長したと感じています。研修で身に付けたファシリテーションスキルはもちろんですが、ファシリテーター学生への情報共有など、マネジメントの部分にまで関わることができたので、自分に自信がつけました。ぜひ後輩たちにも同じように成長してほしいですし、何より新入生たちが少しでも心配事をなくし、期待をもって東経大に入学してくれるように、これからもこのイベントは継続していったほしいと思っています」と語りました。



加藤みどり経営学部教授

学生たちを支えた加藤教授は「今回のプロジェクトで、主体的に学ぶ学生の飛躍的な成長を目の当たりにしました。また、前田さんや中山さんのように積極的に運営に取り組んだ学生の、他の学生への影響力は計り知れません。学び合う学生同士は、いわば無敵です。ファシリテーターの育成には研修と実践（本番当日）の両方が必要だということも確認しました。本番では、緊張の中で知識・スキルを総動員して対応する一方、判断に迷った時には研修での学びや仲間との話し合いに立ち返って行動する。研修時にチームで時間をかけて話し合ったことが、彼らの自信や行動の根拠になりました。2017年度

のウェルカムパーティに出席した新入生が、先輩たちのようになりたいと2018年度のファシリテーターに応募して迎える側になるなど、よい連鎖も生まれつつあります。上級生がロールモデルとして認められたということでしょう。ファシリテーター学生たちが得たものは、今後授業やオープンキャンパスなど、他の学生生活に活かせる大きな可能性があると思います」と述べています。

今後大学として、学生たちが主体的に学び、成長し合う環境づくりを目指し、ピアサポートの充実に積極的に取り組んでいきます。

特集 2

佐々木裕一コミュニケーション学部教授が 電気通信普及財団のテレコム社会科学賞を受賞！

佐々木裕一コミュニケーション学部教授が著書『ソーシャルメディア四半世紀 情報資本主義に飲み込まれる時間とコンテンツ』で電気通信普及財団の第34回テレコム社会科学賞を受賞しました。テレコム社会科学賞は、電気通信普及財団賞の社会科学分野での優れた著作や研究論文を表彰するもので、1985年より実施され今回で34回目を迎える権威ある賞です。



佐々木教授は今回の賞を受けて、次のように話しています。

「スマートフォンを見れば私たちはそれを手にとってしまいます。そしてスマホのホーム画面に見えるアプリの通知を見れば、それを起動してしまうし、アプリのタイムラインに次から次へとコンテンツが現れれば、それをずっと見続けてしまいがちです。つまりハードウェアとソフトウェアが作る情報環境によって私たちの行動はコントロールされているとも言えるわけです。

そしてその情報環境が作られる時に重視されているのが、そのアプリやサービスのビジネスモデルです。モノを買うためのアプリであれば、購入ボタンを押してもらうように、広告が主な収益源のアプリであれば、なるべく何度も訪問してもらい滞在時間も長くなるように情報環境は作られています。

このように情報環境とビジネスモデルは密接に関係しているのですが、その両者にきちんと目配りしている研究は少ないですし、しかも歴史的にパソコン中心の時代からスマートフォン中心の時代への変遷を丹念にたどった研究也没有。そのような点が評価されての受賞だと思います」

佐々木教授は、2016年に『ツイッターの心理学 情報環境と利用者行動』で、本学の北村智コミュニケーション学部准教授と同奨励賞を受賞しています。



第34回テレコム社会科学表彰式の様子



特集 3

日本初・シニア向け大学院博士課程で新制度 「3年分の学費で6年間在学」が可能に

本学経済学研究科とコミュニケーション学研究科では、2019年10月に実施される博士後期課程シニア向け入試の対象者（入学時に満52歳以上）より、3年分の学費で最長6年まで在学が可能になる制度（長期履修制度）を新設します。6年間かけて、課程博士論文を仕上げることを目指すコースです。

一般的に博士後期課程の期間は3年満期で最長6年まで在学延長が可能です。4年目からも毎年授業料を納めなければならない、6年間在学すれば6年分の学費がかかります。しかし新制度では、入学時に修業期間として「6年制」を選択すれば、3年分の学費で6年間在学できるようになります。

修士課程で修業期間を4年まで選択できる大学院は多いですが、博士後期課程では少なく、しかも仕事や介護との両立が前提となっているため、在職証明書や介護認定の証明などの提出が義務付けられています。定年退職後に時間をかけて研究をしたい人などに対しての長期履修制度は、日本で初めての取り組みです。入学時に満52歳以上の方であれば、書類審査と口述試験のみで受験できます。

コミュニケーション学研究科では、2016年より日本初となるシニア向けの博士後期課程入試を実施しており（経済学研究科も2019年より実施予定）、実務による知見を学術的に研究したいなどの目的を持ってシニア大学院生が入学しています。そこで、急いで学位を取ることより落ち着いて研究したいという希望があることや、研究活動に慣れないために論文執筆の時間がかかることなどを考慮し、新制度の導入となりました。

大学院の出願期間は、2019年9月2日（月）～9月6日（金）必着で、試験日は10月19日（土）です。出願に先立ち、7月16日（火）より事前相談（要予約）を受け付け、7月20日（土）の10時から大学院の説明会を行います。2020年2月にも、シニア向け入試を行う予定です。

本学大学院では、修士課程と博士後期課程の一般入試（書類審査・専門試験・英語・口述試験）を行うほか、修士課程では、社会人向け入試や、シニア大学院（満52歳以上・4年間在籍しても学費は2年分で可）の入試等も継続しており、出願期間は同じです。

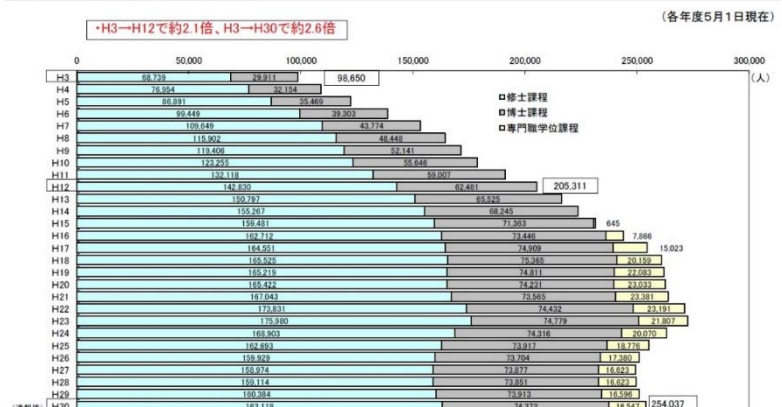
【参考】

大学院への進学意欲を高める

シニアの増加

21世紀に入って大学院の在学者数は約2倍となり、社会人の大学院への進学意欲が高まっています。文部科学省の「学校基本統計調査」によりますと、2017（平成29）年度の大学院在学者数は約25万人です。博士課程の在学者は約7万4000人で、そのうち社会人は約3万人で、42.7%を占めています（修士課程も合わせた大学院全体では社会人の在学者数は約6万人で、

■ 大学院在学者数の推移



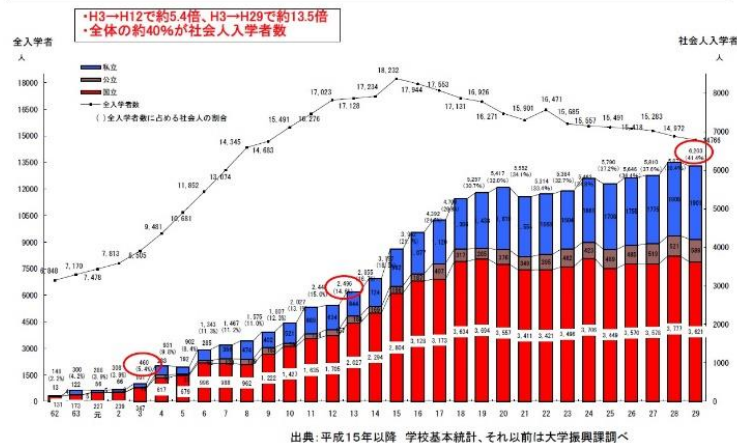


23.8%)。全体に理工系の研究科の在学者が多いですが、専門職大学院も増加しています。

2017年度の大学院入学者は、博士課程が1万5000人（修士課程や専門職大学院を合わせると約9万5000人）、うち社会人は約6300人（同約1万8000人）で、入学者全体の41.4（同18.4%）を占めています。

■ 博士課程への社会人の受入れ状況

- 博士課程への社会人の受入れ数は、大学院の拡充に合わせて大幅に拡大したが、近年はほぼ横ばい。



このように、「社会人の学び直し」についてのニーズは高くなっていますが、仕事をしながら大学院へ通うのは時間的に難しいケースが多いため、仕事の忙しさが一段落して定年を迎える前後の世代を対象に、シニア大学院生入試を行う大学も増えてきました。

文部科学省でも、2017年よりリカレント教育の拡充に取り組んでおり、人生100年時代へ向けた「学び直し」に向けて、さまざまな施策を推進しています。今回の施策は、大学教育としては最高峰である博士課程での研究について、シニア世代に門戸を広くする制度です。

もともと東京経済大学は、大学院の修士課程のシニア入試を2006年から行っており、これまでに本学でシニア大学院生として入学した方は、2006年度からの累計で50名です。このうち経済学研究科が14名、コミュニケーション学研究科が18名（博士後期課程を含む）で、シニア大学院生の制度を全国に先駆けて充実させてきました。今回の新制度導入により、海外の大学院へ留学した人や、専門職大学院を修了して修士号を取得した社会人なども、時間をかけて研究を深めることができます。



東経大インフォメーション

Information 1

大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会

学術講演会「ダイヤモンドから見る地球内部」を開催

東京経済大学の前身である大倉商業学校の創立者・大倉喜八郎は、大実業家として活躍したばかりでなく、学術・芸術の分野の振興・発展にも大きく寄与しました。

その志を継承し、2002年4月に発足した大倉喜八郎記念東京経済大学学術芸術振興会は、以来17年の間に、第一線で活躍する研究者や新進の芸術家などを招いた企画を広く公開してきました。この度、2019年度第1回目の企画として「ダイヤモンドから見る地球内部」と題し、学術講演会を行います。

近くて遠い地球内部の最新の研究や実験を紹介

地球の半径は約6400 kmで、地表から地殻、マントル、核という層状構造をとっていますが、地球深部の情報はどのように得られたのでしょうか？ 地中に穴を掘って人類が到達できる深さはたかだか10km程度で、とても地球の中心まで到達することはできません。地球内部は近くて遠い場所なのです。

宝石としての価値が高いダイヤモンドは地球内部を研究する上で、とても重要な役割を果たしてきました。ダイヤモンドは最も硬い物質で、化学的にも安定しています。ダイヤモンドを用いて地球の深部に相当する圧力を再現することもできます。講演では地球内部の最近の研究や物質に圧力をかける実験を紹介いたします。

学術講演会「ダイヤモンドから見る地球内部」	
講 演	鍵 裕之 氏 (東京大学大学院理学系研究科教授 東京大学アイソトープ総合センター長)
開催日程	2019年6月15日(土)
開演時間	15:00
申し込み	本学ホームページより URL: https://www.tku.ac.jp/

Information 2

キャリアデザインプログラム

昨年に引き続き「デイキャンプ」を開催

キャリアデザインプログラム（CDP）は2019年4月20日（土）、本学6号館7階大会議室にて2019年度入学の3期生を対象とした「デイキャンプ」を開催しました。

今回で2度目の開催となる「デイキャンプ」は、2017年度、2018年度の入学生である1期生と2期生を中心とした有志の学生団体「TKU Unlimited」、そして担当教員によって運営され、ジョブシャドウイング（*）を経験した2期生による成果報告や「TKU Unlimited」による活動、大学生活に関するプレゼンテーション、ワークショップなどが行われました。

ワークショップでは「大学生活における目標」や「CDP生としての過ごし方」を題材とし、各グループがかるた形式の標語を作り発表を行いました。個性溢れる様々なかかるたが出来上がる頃には新入生たちの緊張も徐々にほぐれはじめ、積極的に意見を述べていました。



ワークショップの様子



完成した標語を発表

「TKU Unlimited」代表の加藤美香さん（1期生・コミュニケーション学部3年）は、「2年目となるデイキャンプは、私たちに昨年の反省を改善し、さらに有意義なものに仕上がったと思います。3期生の皆さんには、かるたのワークショップを通してCDP生としての学生生活を意識してもらえたら嬉しいです」と語りました。



「TKU Unlimited」代表を務める加藤さん

（*）ジョブシャドウイング

学生が企業に半日程度赴いて従業員に密着。職場での仕事ぶりを観察する。米国ではインターンの前段階として多くの企業で採用されている職業教育プログラム。



Information 3

2019 年度入試結果

キャリアデザインプログラムは 10.1～19.4 と高い倍率を記録

2019 年度全入試の志願者数は、18 歳人口が減少に転じ、前年を下回る厳しい状況の中、14,363 名と前年より 452 名の微減となりました。特筆すべき点は 2017 年 4 月にスタートしたキャリアデザインプログラムでは、25 名の応募に対し 678 名が志願する高倍率（10.1～19.4）を記録しました。

年度	2015	2016	2017	2018	2019
推薦・AO等	707	852	1,078	1,229	1,098
一般前期	4,703	5,165	6,462	7,081	7,444
センター前期	5,438	5,187	5,565	5,115	4,516
一般後期	889	807	1,141	1,139	1,085
センター後期	264	271	314	251	220
合計	12,001	12,282	14,560	14,815	14,363

Information 4

大学説明会

国分寺は 5 月 24 日(金)／28 日(火)、大宮は 6 月 18 日(火)に開催

本学の教育内容、就職支援への取り組み、入試結果及び入試制度について、高等学校の進路指導担当の先生方に説明する大学説明会を本年度も開催します。

当日は全体説明だけでなく、本学教員や入試課職員等が個別に相談や質問にお答えする時間もあります。また国分寺会場ではキャンパス見学を実施します。

	国分寺会場	大宮会場
開催日程	2019 年 5 月 24 日(金)、5 月 28 日(火)	2019 年 6 月 18 日(火)
開催時間	15:00～17:20（受付 14:30～）	15:00～17:20（受付 14:30～）
会 場	東京経済大学 国分寺キャンパス 大倉喜八郎 進一層館ホール (国分寺市南町 1-7-34)	大宮サンパレス(3 階・ストーリー) (埼玉県さいたま市大宮区仲町 1-123) ※大宮駅東口より徒歩 3 分
当日連絡先	042-328-7747 <入試課直通>	048-642-1122 <代表>
プログラム	<第一部>15:00～16:45 全体説明会 大学挨拶／学生発表／学部教育・学生支援／就職支援／入試結果及び入試制度 <第二部>16:45～17:20 個別相談・キャンパス見学会 ※希望者のみ ※キャンパス見学は本学(国分寺)のみ	



Information 5

キャリアデザイン・フォーラム 2019

主体性を引き出すキャリア教育 ～高校・大学・会社での連続的なキャリア形成～

東京経済大学キャリアデザインプログラムでは、低学年から連続で、かつ段階を追ったキャリア教育を実施しており、その過程で高校・大学・就職後という初期キャリアの時期を連続的に考える視点が重要だと考え本フォーラムを実施します。専門家による講演、キャリアデザインプログラムの授業紹介、所属学生の発表などが予定されています。若年層のキャリア形成に関して興味をお持ちの皆様のお来場をお待ちしております。

フォーラム概要	
開催日程	2019 年 5 月 18 日(土)
開催時間	14:00～16:30 (受付 13:30～)
会 場	東京経済大学 国分寺キャンパス 6 号館 7 階 大会議室 (国分寺市南町 1-7-34)
プログラム	<開会のあいさつ> 東京経済大学副学長・キャリアデザインプログラム運営委員長 竹内秀一 <基調講演> 「企業の人材育成の視点で考えるキャリア教育」 東京経済大学キャリアデザインプログラム客員教授 板谷和代 <特別講演> 「楽しく働く大人と高校生との対話型キャリア教育 ～近未来ハイスクール～」 株式会社オープンラボ 代表取締役 小林利恵子氏 <授業紹介> 「新理論にもとづいたキャリアデザイン授業 ～授業で使えるワークシートをプレゼント！～」 東京経済大学キャリアデザインプログラム運営委員・コミュニケーション学部准教授 小山健太 <学生発表> 「私たちが考えるキャリアとは」 東京経済大学キャリアデザインプログラム学生団体「TKU Unlimited」メンバー <パネルディスカッション> 東京経済大学キャリアデザインプログラム客員教授 板谷和代 株式会社オープンラボ 代表取締役 小林利恵子氏 東京経済大学キャリアデザインプログラム運営委員・コミュニケーション学部准教授 小山健太 東京経済大学キャリアデザインプログラム学生団体「TKU Unlimited」メンバー <閉会のあいさつ> 東京経済大学キャリアデザインプログラム主任・コミュニケーション学部准教授 北山 聡

東京経済大学 総合企画部 広報課

〒185-8502 東京都国分寺市南町 1-7-34

TEL: 042-328-7724 FAX: 042-328-7768 Email: pr@s.tku.ac.jp